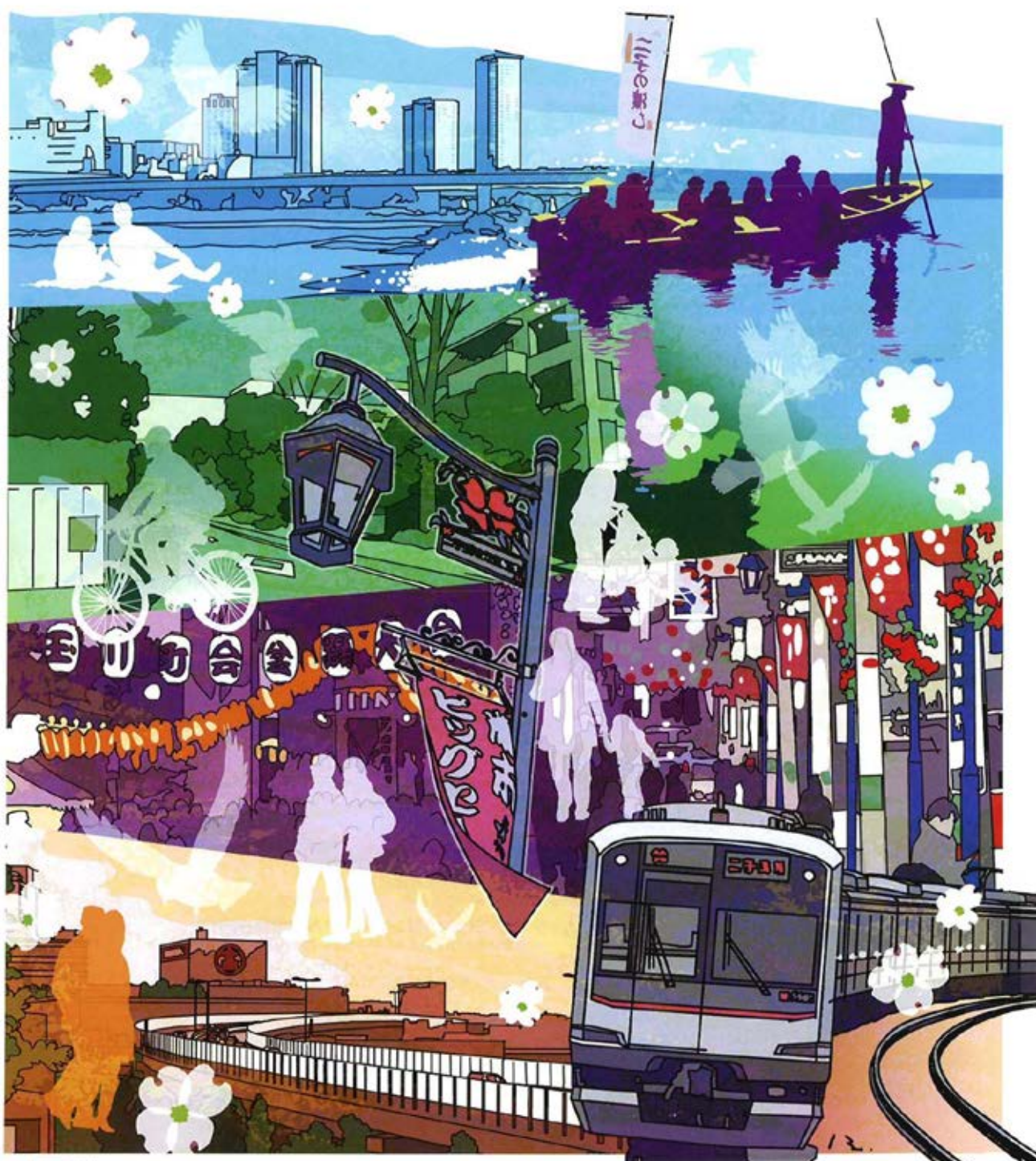


第1回二子玉川街情報プロジェクト・ワークショップ
「IT でできること。人でツナグこと。」

報告書



二子玉川 100 年懇話会
Creative City Consortium
クリエイティブ・シティ・コンソーシアム

もっと
もっと

100年先も
クリエイティブな街
であるために！

／ 第1回 ／

二子玉川 街情報プロジェクト・ワークショップ

ITでできること。 人でツナグこと。

二子玉川にいて、ほしい情報ってなんだろう？みんなに伝えなければいけない情報って？普段の生活を充実させる情報はもちろん、万が一のときへの備えや緊急時に、本当に必要な情報って？そんなとき、どうやって情報を伝える？IT技術でできることは？普段の生活の中で人と人をつなぐには？

そんな疑問をみんなで考えるため、二子玉川100年懇話会で議論を続けている「街情報プロジェクト」とクリエイティブ・シティ・コンソーシアムは共同検討ワークショップを開催しました。

企画の背景

災害や事故に対し、従来は行政がルールを創り、一方的に市民に情報を提供するファンクション型（集中制御・縦割型）の仕組みで対応してきましたが、そのような仕組みだけでは大規模・複雑な災害や事故には対処しきれないことが東日本大震災でも改めて明らかになりました。



これからは災害や事故の際に特定のファンクションが機能しなくなったとしても、市民が主体的に対応することができるネットワーク型（自律分散協調型）のリジリエントなコミュニティ作りが必要との考えが高まりつつあります。今回はこのようなコミュニティ作りを支援する地域の情報基盤のあり方をワークショップ形式で検討しました。

ワークショップの目的

普段の生活でほしい情報は何か？万が一のときへの備えや緊急時に本当に必要となる情報とは何か？情報を伝える手段に何を利活用するか？IT技術で解決できることはあるのか？個人情報の取り扱いなど、留意や解決しなければならないことは何なのか？



市民が主体的に考え、ルールをつくり、情報をつくり、そして災害時に頻発する例外対応を可能にする、強くしなやかなコミュニティを支援する地域の情報基盤に、必要な要件を抽出し、この要件に対してIT技術をどのように活用するべきかを、二子玉川地域に関わる皆さんを中心に検討しました。

ワークショップ開催概要

開催日時 2013年2月3日(日) 13:30-17:00
開催場所 二子玉川ライズ オフィス8F カタリスト BA
参加費 無料 (申し込みページを通じて一般からも募集・抽選)
13:00- 開場・受付
13:40- オープニング
13:50- プレゼンテーション
・二子玉川「街」の取り組み紹介
・クリエイティブ・シティ・コンソーシアム紹介
・東日本大震災から考える地域の情報のあり方
14:40- ワールドカフェ
(17:00- 懇親会)

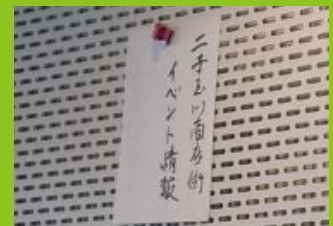
ワークショップの主催者

共催：二子玉川100年懇話会 / クリエイティブ・シティ・コンソーシアム

実際の地域の課題や活動に取り組む二子玉川100年懇話会(玉川町会)と企業や大学等の先進技術や研究開発を「街」で生かそうと取り組むクリエイティブ・シティ・コンソーシアムの共同主催で、二子玉川の「街」の課題解決の可能性を模索しました。

参加者

ワークショップ参加者 55名(懇親会出席者 61名)



会場には、二子玉川の各所から集められたポスターやチラシが貼り出されました。
紙媒体の情報だけでもこんなに沢山の情報が二子玉川に溢れているのですね。

二子玉川「街」の取組み紹介

二子玉川 100 年懇話会 中川氏



二子玉川 100 年懇話会の中川さんからのお話。

玉川地域では、世の中の高齢化とは違う人口推移をしている。

町会、PTA、商業関係、その他、多様な方が集まって 100 年懇話会をつくり、住みよい街づくりに取り組んでいっている。

まちづくりの 3 つのテーマ「みず・みどり・さかを活かした環境づくり」「くらしやすさ」「まちのにぎわい」と 7 つの基本的考え方をもとに、定期的に会合を行っている。

1000 世帯の新しい住民に情報を共有するため、歴史や地理などを掲載した「ものしりマップ」を作成、配布。東日本大震災直後には震災対策マップを作成。共助に注目したマップ作りを行った。

23 年度には、災害時要援護者支援、ご近助広場、災害時・玉川情報ネットなどの取り組みを実施した。

会場の後ろに掲示してあるのが、実際に、玉川にある情報の広報やチラシ。

回覧板のほか、掲示板やサイネージ、インターネットなど、たくさんの方があるのに、上手く伝わっていないことがある。

そこで、いつでも誰でも見られるような情報の媒体をつくりたい。

実際に、媒体をどんなテイストで統一していくかを考えるために、イメージ調査なども行った。今後の課題としては、このブランド化の部分や、掲示板や災害時・玉川携帯ネットの充実等を考えている。

プレゼンテーション 2



二子玉川クリエイティブ・シティ・ コンソーシアムの取り組み紹介 - クリエイティブ・シティ・コンソーシアムの紹介 -

東急電鉄 白鳥氏

クリエイティブシティコンソーシアムが何故できたのか。元気のない日本には、クリエイティブが生まれる都市、街が必要と考えた。クリエイティブがあふれる街にたくさんの方が集まることで街も成長していくという構想をもち、二子玉川、渋谷、自由ヶ丘で形成される「プラチナトライアングル」の一角をなす二子玉川に着目した。

二子玉川地域をモデル実験都市として、法人会員、学会会員、個人会員、研究会員などで多様な活動を行っている。

企業と地域の良いコラボレーションの機会なので、これからの街づくりに活かしていければ。

二子玉川クリエイティブ・シティ・
コンソーシアムの取り組み紹介
- 東日本大震災から考える地域の情報のあり方 -

日本情報経済社会推進協会 坂下氏



親類が亘理で被災をしたが、支援をしている時に、私は誰かということを証明できないということがあった。東北では人のつながりで補えたが、都会では難しい。本人確認は大事だが、何とかして個人情報に対して、ポジティブに取り組んでいきたい。

混乱期に、どういう人がどこにいて何をできるかを IT でどうにかできないか。

今、二子玉川で実験しているのは、自分が誰であることを証明してくれる代理人のような機能を持っている PPM という仕組み。

イギリスでは、AR（拡張現実）を使って、犯罪情報を提供するという取り組みも行われている。

日本では、大和ハウスが建築予定地で、今後どのぐらいの確率で地震がおきるかという情報を提供するサービスがある。

持続性のある街をどうやって創りだしていくかということを知りたい。

ワールドカフェ

ラウンド1 「非常時にどんな情報が欲しいですか？」

ラウンド2 「普段はどんな情報がほしいですか？」

ラウンド3 「非常時と普段欲しい情報をツナグと？」

ワールドカフェは、本物のカフェのようなリラックスした雰囲気で行う、話し合いの方法です。参加者は、ラウンドごとにメンバーの組合せを変えながら、上記のテーマで話し合いをしました。

テーブルは10テーブル。各テーブルでの話し合いは、それぞれ特徴がありつつも、なんとなく似ていたり・・・

そんな、各テーブルでの話し合いの一部をご紹介します。

テーブル A

人々のつながりが
大事だと思う。



テーブルでの話し合いの結果

※懇親会での発表内容

平常⇔非常切り替えが出来るスイッチのようなものがあると良い。インターネットや掲示板など、特性によって異なる強靭さが必要。やはり、人々のつながりが大事だと思う。



テーブルメンバーのコメント

※参加者のコメント

二子玉川という地域の取り組みは深いと思った。



テーブルでの話し合いのポイント

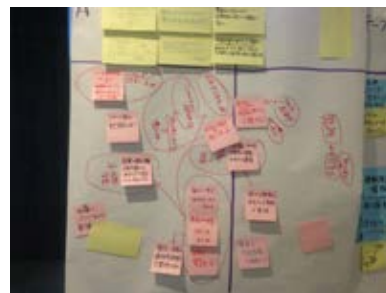
ラウンド1



ラウンド2



ラウンド3



● 普段⇔非常、スイッチが大切

● 掲示板の利活用 UP !

● 非常時の情報アクセス

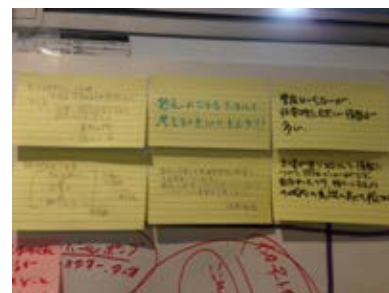
- ・ 情報アクセスの教育
- ・ 調べる情報と発信される情報の整理

● 普段と非常で提供する内容を整理

- ・ 普段の行政情報を身近に
- ・ 情報がどこにあるか整理

テーブルメンバーの感想

- ・ どんな災害があるか分からない。そういった中で情報を伝えるための情報ルートネットには [柔軟性、強靭さ]。
- ・ まわりの人のことを [知っておく→見守る→助け合う] が大切。この為の仕組みやツールが大切。
- ・ 地元のことをたまには考えるのも良いものだ！
- ・ 普段の仕事とも関連性のある内容で大変参考になりました。
- ・ 普段と非常のスイッチをいかにスムーズにつなぐことの重要性を感じました。
- ・ 普段は知らないが、非常時に欲しい情報が多い。
- ・ 立場が違うみなさんと情報についてディスカッションができ、面白かったです。
- ・ 特に二子玉川の域内の意識の高さを感じられた。



テーブルBC

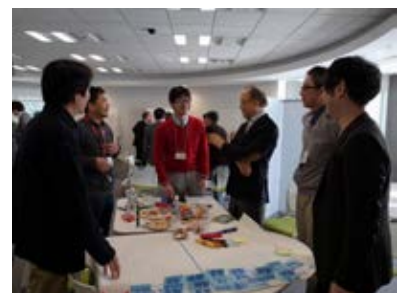
非常時に「要らない情報」はない。



テーブルでの話し合いの結果

※懇親会での発表内容

非常時に要らない情報は特になく、緊急性という軸で分類した。最初は、居場所の安全性や家族の安否、避難場所、水・食糧の情報が得られると良い。水だけでなく、携帯の充電やwifiも使えるような、車が巡回する「情報給水車」のアイデアが良かった。



テーブルメンバーのコメント

※参加者のコメント

平常⇔非常を横軸に、縦軸を緊急度にとると、非常時に早くほしいのは家族の安否などだというコトがわかった。



テーブルでの話し合いのポイント

ラウンド1



ラウンド2



ラウンド3



● 平常時

- ・ 非常時に必要な情報は普段からオープンに
- ・ 個人情報保護の課題も検討

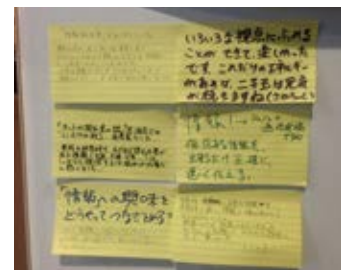
● 非常時

- ・ 非公式だが、重要な情報の発信方法
- ・ 非常時には行動指針のある情報を

● 平常時 × 非常時のまとめ サイトを

テーブルメンバーの感想

- ・ 情報給水車があったら良いな。
情報は今や水と同じ位重要であり、マスメディアの伝える情報は必ずしも当事者にとって有用でないことが分かった。
必要な情報を各人が引き出せる仕組みや情報のトリアージが必要であると感じました。
- ・ 「ネットの給水車の話」「居酒屋でのここだけの話」、有意義でした。
普段も非常時もわざわざ得る必要がある情報（交通・天候・災害・・・）は、しっかりと提供する仕組みが必要だと感じました。
- ・ 情報への興味をどうやってつなぎ止める？
ついお腹いっぱいになったり、いっぱいありすぎて目に入らなくなったり・・・。
- ・ いろいろな視点に触れることができて楽しかったです。これだけのエネルギーがあれば、二子玉川は元気が続きますね。
- ・ 情報！→シャルの通信理論ですね。
価値ある情報を出来るだけ正確に早く伝える。
- ・ 非常時に必要な情報を平常時にほしい情報と組み合わせて伝えられたら良い。
感想としては同席させて頂いたみなさんの知識にただただ勉強になって楽しかった。



テーブルD

通常時に必要な情報を 非常時につなげるためには。



テーブルでの話し合いの結果

※懇親会での発表内容

欲しい情報、要らない情報ではなく、緊急度で分類した。並べていくうちに、震災が起きる前に必要な情報もあるということに気付いた。行きつくところは、人と人がつながり。そう考えると、「通常時に必要だった情報を非常時につなげるためにはどうしたら良いか」というテーマになった。

テーブルメンバーのコメント

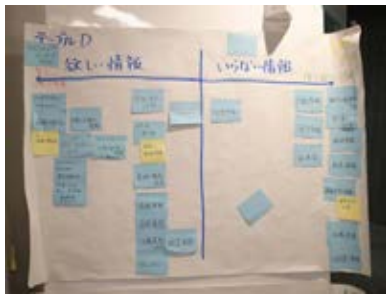
※参加者のコメント

普段はインターネットでつながっているような人も多い今、電源が落ちてしまったらどうしたら良いか。観光地みたいにプロフェッショナルな案内人を置いてはどうかとのアイデアも出た。



テーブルでの話し合いのポイント

ラウンド1



ラウンド2



ラウンド3



- 地域のポータルサイトを！
 - ・ Yahoo!・Google に代わる
二子玉川の情報サイト
 - ・ 有事の際には切り替わる！

- 駅を出たところに！
 - ・ 案内所（案内人）
（→）矢印とか
 - ・ 地図

- 「紙媒体」（チラシ）の「案内人」
により、人から人へ

- 口コミに勝る情報伝達手段は
ない！？

テーブル E

アナログのエッセンスを ITの技術へ。



テーブルでの話し合いの結果

※懇親会での発表内容

気付きとして、災害の情報は「近隣の関係」「アナログのITへの応用」「施設のデュアルユース（2通りの利用）」等のキーワードが挙げられた。自分から取りに行く情報と、勝手にくる情報がある。地域の情報ではアナログの力が強い。アナログで上手くいっている方法のエッセンスを上手くくみ取って、ITの技術でできると良い。



テーブルでの話し合いのポイント

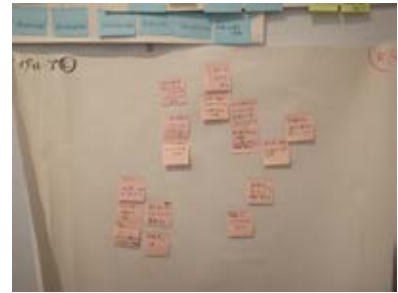
ラウンド1



ラウンド2



ラウンド3



● 近隣との関係

- ・ Face to Face は地域
- ・ IT でもマッチング有

● アナログの IT 活用

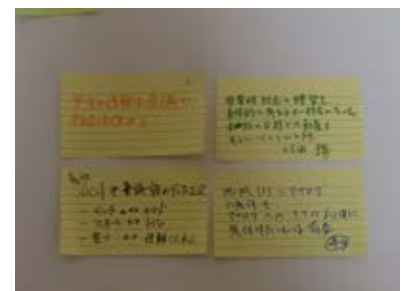
- ・ 地域はアナログの以前の形
→新しい形（ヒエラルキー）

● 普段のイベントのデュアルユース（2通りの利用）

- ・ 祭り and 避難訓練
- ・ お泊まり会 and 避難訓練

テーブルメンバーの感想

- ・ 災害の情報は近隣の相互関係から
- ・ 非常時対応の練習を具体的に考えるよい機会になった。未知の分野での勉強も考えていくことにします。
- ・ 地域（人）＝アナログに気付き、アナログへのITの応用に気付けたことは有益。
- ・ 気付き、イベントや施設のデュアルユース
 - ベンチ⇔カマド
 - マンホール⇔トイレ
 - 祭り⇔避難訓練



テーブルF

緊急に要る情報の 流し方を考えて。



テーブルでの話し合いの結果

※懇親会での発表内容

要るか要らないかではなく、時系列で並べた。緊急に要る情報は流し方をどうするか、少し経ってから要る個人情報や安心を担保しながら、どうやって預けるかが重要。平常時の情報は、人や仕事によって興味情報は違うが、混雑情報や天気情報など汎用性の高いものは欲しい情報として分類した。最終的には人に行きつくということで、地域の顔役みたいなものや、隣組 SNS、中学生をボランティアに引き込むといったようなアイデアが出た。



テーブルでの話し合いのポイント

ラウンド1



ラウンド2



ラウンド3



- 街を歩く・見る・知る
 - ・二次元で終わっている人にどう出てきてもらうか
 - ・企業の体験学習

- 【人】ボランティア活動で
 - ・中学生を引っ張り出す

- 【場所】商店街を拠点に
 - ・商店街ががっつなく役目
 - ・商店街活性化を

テーブルメンバーの感想

- ・地元への帰属意識を育める場所をつくる→メディアでなく人を介した安心情報→安心に暮らすための最低条件？
- ・やはり普段からの人と人とのつながりが大切だと感じた。町の世話役になる人がいる町、商店街がもっと活性化し住民とのパイプ役になってくれるとよい
- ・地域の世話役をどう作るか。企業・学校の組織力は有益。隣組の再生（隣人 SNS）
- ・2時間多くの方と意見交換ができました。地域の中で世話役的な人が必要。住民として地域が安全なら安心して働きに出られます。地域に合った活動を進めていかなければと思います。隣の人は何をする人なのか、何をしている人なのか、全然知らないのかに寄ってつながりに差が出てしまいます。
- ・自分の体験と自宅周辺を頭に思い浮かべながら議論させていただきました。問題意識は日々持ちつつも、具体的に考える良い機会となりました。
- ・できれば隣の人の顔は知っておきましょう！



テーブル G

おいしいものを食べて 知り合う“知域ご飯”を。



テーブルでの話し合いの結果

※懇親会での発表内容

皆ほしい情報だと思ったが、欲しいけれど、後で良い情報もある。生命に関わるものの次にインフラや健康、その後に財産情報という順に、必要に案ってくる。インターネットを検索すれば今では、ほとんどの情報が手に入るが訃報はなかなか手に入らない。生活者・消費者のほしい情報は分かれる。誰が手に入れて活用するか分からない情報は、どう扱われるかが心配。誤報やデマはいらない。緊急時に必要なのは静的か動的かという動的な情報。各街に電源を備えた情報ステーションみたいなものがあると良い。最終的には隣の人がどういう人か分からないといけない。おいしいものを食べて知り合うために“知域ご飯”をしてはどうか？ 鮎ラーメンとかでやったら良いかも。

テーブルメンバーのコメント

※参加者のコメント

情報は生き物。生きている情報を皆で共有できれば。



テーブルでの話し合いのポイント

ラウンド1



ラウンド2



ラウンド3



- 信頼できるのはリアル
 - ・リアルな人同士での情報交換で
情報入手

- 普段からの共同作業
 - ・同じ釜の飯
 - ・高齢者 BBQ
 - ・知域ご飯

- 街の情報ステーションを
 - ・インターネット弱者を救え！
 - ・電源も！

- 本当の情報を
 - ・デマはいらない

テーブルメンバーの感想

- ・情報は生物（イキモノ、ナマモノ）。
- ・情報のまとめ方で非常時・平常時に分け、尚且つ必要なもの、不要なものに分けたり、生活者・消費者に分ける等大変参考になった。
- ・リアルなコミュニケーションが一番大切なこと、そして情報。
- ・「どんな情報が欲しいか？」その答えは人によって千差万別。
でも大事な情報はリアルな人と人とのつながりから、得たいという思いは共通だということが分かった。
- ・今日参加させていただき良かったのは、仮説の検証ができたことと、初めてお会いした方たちとも同様の意見を頂戴できたことです。
今後も機会がありましたら是非ワークショップ参加したいです。



テーブルH

使う場面によって 異なる情報のツールを。



テーブルでの話し合いの結果

※懇親会での発表内容

要らない情報はなく、直ぐにいるものと直ぐには要らないものに分かれた。例えば、生きることに関わるもの、家族の安否確認などが、緊急度が高い。個人単位で必要な情報か、それをケアする集団で必要な情報かという視点もあった。

日常の情報は人によって違い、日常と非常時で情報の質はかなり違う。

病院の評判や、雪かき状況のような生活情報が、顔の見える口コミで情報共有できると良い。非常時はITツールを使える人と使えない人の差が大きい。インターネットがない状況で、誰を情報の管理者にするのか、町会と町会との連絡はどうするのかといった課題が見えてきた。使う場面によって、ふさわしい情報のツールが異なる。必ずつなげる電話回線や、券売機ぐらい使いやすい機器のデジタル情報を備えておく必要があるのではないか。

テーブルメンバーのコメント

※参加者のコメント

「続きはWebで……」と終わらせずに、デジタルサイネージ（電子掲示板）等を活用して、提供されている情報を見ることができなかった人に、どうやって情報を届けていくべきなのかを考えていきたい。



テーブルでの話し合いのポイント

ラウンド1



ラウンド2



ラウンド3



● 普段

- ・消費・生活情報、比較的情報は何でもある

● 非常時

- ・インターネットが使えないなどの状況で情報を得る手段を確保する必要がある
- ・生きるための情報、正確な情報を抽出する力が必要となる

● web でしか入手できない、情報って何？

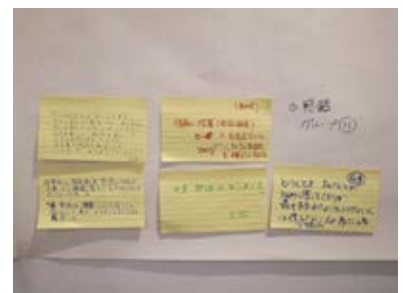
- ・口コミではカバーできない情報
→自治体の公式情報の鮮度

● web を使っていない人のケアは？

- ・後見人でなくゆるやかなサポート
- ・Net がない事を前提に組み立てては？

テーブルメンバーの感想

- ・ワールドカフェで話し合う中で、自分の考えが整理され、他の方の思いや考えを知ることができました。とても楽しく、地域を中心とした方々とお話することができ、有意義な時間を過ごすことができました！ありがとうございました！
- ・非常時は情報発信・受信の手段が大事。もっと考えておかなければならないと思った。普段はwebを使う人と使わない人で差がますます大きくなると感じた。
- ・情報の階層（地域の粒度）と各階層間でのリンクの重要性を改めて確認できました
- ・大変勉強になりました。
- ・どうしてもデータとかネットに寄ってしまうが、最も救わないといけない人は使えない人が多いと気付きました。



テーブルI

情報が上手く回っているところが
災害に強いコミュニティ。



テーブルでの話し合いの結果

※懇親会での発表内容

ほとんどの情報は要ると思い、時系列で並べた。近い人の情報の安否情報と言った時にどこまでを近い人と捉えるか。共助に近い部分。
普段の情報は、上手くまとまらなかった。行政という括りでの情報はいらない。世の中のスピードが速くなったので情報がほしいが、どういう風にとりいれて良いかわからず、逆に、あえて情報をとらないような状況になっているとも言える。Webは必ず活用の余地があるが、SNSは広すぎる。現在では、口コミをどのように醸成していくかが難しい。情報を受信するばかりでなく、発信したいと思えること、発信されている情報を丁寧に拾っていくことが大事ではないか。情報の循環が上手く回っているところが災害に強いコミュニティではないかと思う。

テーブルメンバーのコメント

※参加者のコメント

今のITに欠けている要素に気づき、勉強になった。



テーブルでの話し合いのポイント

ラウンド1



ラウンド2



ラウンド3

● 行政情報

- ・機能していない、発信元が統一されていない
- ・見る機会ない
- ・「行政」というカテゴリーではなく…

● 普段の情報

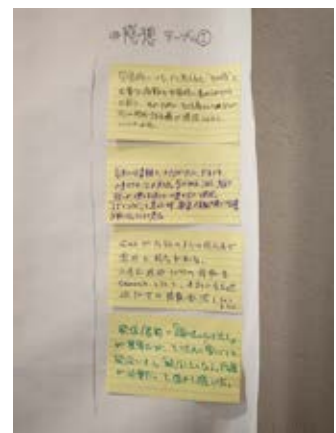
- ・交通渋滞情報、工事
- ・補助金・セールなどの地域得情報
- ・セキュリティ、痴漢（泥棒、空き巣）

● WEB 情報

- ・情報量は大きい
- ・使える人、使えない人がいる
- ・PC 講座などでカバー

テーブルメンバーの感想

- ・災害時につなげて考えると”その時”に必要な情報を平常時に集められたらと思う。そのために生活者としてコミュニティに参加できる場が提供されると良いのかも。
- ・欲しい情報をよりスピーディに誰でも入手できることが大切。今はweb、SNS 手段が強いが、使える使えないの差が大きい現状。「IT でつなぐ」を考えた時、教育・情報共有できる場必要になってくると思う。
- ・web が万能のように見えるが、意外と弱点もある。二子玉川近辺だけの情報をサーチしたり、また二子玉川近辺だけに情報発信したり etc。
- ・発信・表用で「興味の引き出し」が重要だが、そのために「安心して発信できる」「発信したくなる」仕組みが必要だ、と改めて感じた。



テーブルJ

人にフォーカスした情報をどう提供していくか。



テーブルでの話し合いの結果

※懇親会での発表内容

やっぱり人と人のつながりが大事だということになった。長いターム（期間）の中では全て必要な情報だが、3日以内は大きなターニングポイントということとで分類した。

必要な情報をどのようにして餞別するか等の意見交換をし、インターネットを介した情報と人を介した情報に分別した。

掲示板を見たくなるようなインセンティブ（動機付け）、例えば、地域のプレミアム券のような見たい情報も一緒に出回っていると必要がある。そもそも、見たい情報とは何か。イベントの情報より、誰が何をしているという人の情報が地域において必要なのではないか。

リアルとバーチャルの双方で上手く流通していく仕組みのためのキーワードとして、人を置くとよいのではないか。

人にフォーカスした情報をどう提供していくかということで、回覧板も注目の人の写真が出ていたりとか、クーポンがついていたりとかいった案も出た。インターネットが見られない人に対しては、やはり掲示板が必要。誰がどんな情報を必要としているかがキチンと人を介して把握できていれば良いのではないか。



テーブルでの話し合いのポイント

ラウンド1



ラウンド2



ラウンド3



● 普段から人と知り合う

- ・町内会の声かけ、普段の挨拶
- ・生き字引網ワークショップ
(ご近所集会)
- ・地域でのランチ会 or 飲み会

● 地域の掲示板の魅力付け

- ・企業 × 行政
- ・回覧板活性化
(たまに得情報を入れておく)

● ネットを使わない「人」の対応

- ・誰が何が出来るか？
- ・何をやるか？→誰とやるか？

テーブルK

携帯などを使いこなせていない人にどう情報を届けるか。



テーブルでの話し合いの結果

※懇親会での発表内容

アナログ情報が知れないことが問題。携帯などを使いこなせていない人にどう情報を届けるか。普段から訓練、準備をしていないと、非常時には動けない。今すぐ必要な情報は欲しい情報、要らない情報ではないが少し経ってから欲しいのが医療情報など。多摩川の水位は、二子玉川ならではの知っておきたい情報。

興味があるかないかは人によって違う。興味のない情報は自分で取りにいかないといけない情報。ニュースや天気のような情報はIT等を活用して自動的に入ってほしい。引っ越してきた人にとっても地域の趣味のコミュニティの情報なんかもあると良い。同じ日にやっている同じイベントは集約した方が便利。

テーブルメンバーのコメント

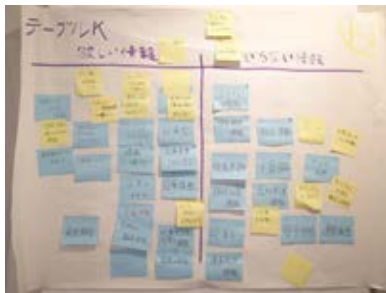
※参加者のコメント

情報が日常と非日常でこんなにも変わるものかと思った。テーブルホストの方の二子玉川を愛している感が情報を自ら出しているという感じがしてとても良かった。



テーブルでの話し合いのポイント

ラウンド1



ラウンド2



ラウンド3



● アナログ情報の発信（非 IT）

- ・ ラジオ
- ・ 広報車両
- ・ 回覧板

● 情報伝達

- ・ 非常時と通常時で同じ伝達手段で
- ・ 地域情報が町会商店街以外の方々にも伝わる工夫

● 非常時の情報発信練習

- ・ 水の配給の告知訓練など普段は使わないけど、非常時に使う情報を常に発信！
- ・ 日頃からいろいろなことを訓練！

テーブルメンバーの感想

- ・ 日常の延長に非日常があり、“～用”ではなく普段と同じ動作で対応していけると楽。
- ・ 情報についてあまりロジカルに考えていなかったと思います。みんなの知恵で良い方向に考え方を整理できた！
- ・ 非日常時の必要なことを日常で訓練・準備が必要。
- ・ 非日常時必要な情報を届けるルート作りを普段から（情報格差なくす）。
- ・ 広域情報に比べ地域情報は伝わりにくい部分がある（非 IT）。非日常時に IT に頼らない情報伝達を持つためには、平常時からの体制構築が必要（地域連絡ルート、コミュニティラジオ、広報車両等）。



懇親会

ワークショップ終了後、ワークショップ内容の発表も兼ねた懇親会を行いました。
「100年続く街づくり」に興味と関心をもつ多様なプレーヤーが集まりました。



【食事協力】

株式会社グラディエ
駄菓子屋おかしモ
たまゆら
ナチュラルクルー
肉の宝屋
西河製菓店
遊食屋



【主な参加者の所属団体やお立場（順不同）】

玉川町会
二子玉川西地区街づくり協議会
二子玉川商店街振興組合
二子盛り会
たまゆら
ナチュラルクルー
遊食屋
おかしモ／RRR プロジェクト
ギャラリー二子玉川
フリーアナウンサー
WEB デザイナー
世田谷ボランティアビューロー
二子玉川交通環境浄化対策協議会
玉川警察署
世田谷区
世田谷区区議会議員
公益財団法人世田谷区産業振興公社
アルファギーク株式会社
インディゴ株式会社
株式会社グラディエ
コクヨ株式会社
有限会社サンウッド
セイコーエプソン株式会社
大日本印刷株式会社
東神開発株式会社
株式会社東急コミュニティー
東京急行電鉄株式会社
ネットシナプス株式会社
株式会社日建設計
富士フィルムイメージングシステムズ株式会社
株式会社三菱総合研究所
一般財団法人日本情報経済社会推進協会
独立行政法人産業技術総合研究所
独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
株式会社 KDDI 研究所
国立情報学研究所
慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科
合同会社橘

シナジーメディア株式会社／株式会社サンカクカンパニー

二子玉川 100 年懇話会
クリエイティブ・シティ・コンソーシアム

【表紙イラスト】

堀田正典

